Back to the Future

クラス：3年D組（想定）　／　作成日：2026年9月13日

> **【たたき台】** この企画書は次年度以降の文化祭候補演目としての初稿案です。配役・A/B班・実施年度はいずれも未定。上演時間・クラス名は`3D-bunkasai-2026`（アナと雪の女王）を踏襲した仮の値です。演出の細部は今後の話し合い・リハーサルを通じて調整する前提でまとめています。

---

1. 演目概要

項目	内容
演目名	Back to the Future（バック・トゥ・ザ・フューチャー）
原作	ロバート・ゼメキス監督のSF映画（1985年）を原案とした舞台脚色
上演時間	約40分（想定）
クラス	3年D組（想定）
学内発表・一般公開	未定

---

2. あらすじ

1985年、高校生の**マーティ・マクフライ**は、発明家の**ドク（エメット・ブラウン博士）**が
デロリアンを改造して作ったタイムマシンの実験に立ち会う。ところが実験中のトラブルで、
マーティは誤ってタイムマシンに乗り込んだまま**1955年**へタイムスリップしてしまう。
1955年で出会ったのは、なんと**高校生時代の自分の両親**。しかもマーティは、うっかり
父の代わりに交通事故から母を助けてしまい、母がマーティに一目惚れするという大事件を
引き起こしてしまう。**このままでは両親が結婚せず、マーティ自身がこの世に生まれなくなってしまう。**
マーティは1955年のドクの力を借りて元の時代に戻る方法を探しながら、両親を無理やり
「恋に落ちさせる」作戦を実行する。頼りは、ちょうど1週間後に開かれる高校のダンスパーティ

「Enchantment Under the Sea」、そして1955年11月12日に街の時計塔に落ちるという
歴史的な落雷――タイムマシンを再起動する唯一のエネルギー源。
過去を変えて未来を守れるか？ 家族の絆と勇気を描いた、SFコメディ。

---

3. 演出方針

「学校の舞台で本当にできるか」を軸に、原作の名場面を教室規模の公演に落とし込む。
各演出の実現方法・代替案は下表のとおり。

原作の演出	学校の舞台での代替案	実現可否
本物のデロリアン（自動車）	段ボール・ベニヤ板製の張りぼて（車体シルエット、ガルウィングドアは蝶番付き段ボール）。フロント部に「フラックスキャパシタ」役のY字型LEDテープを仕込み、タイムトラベル時に点滅させる	○ 実現可能（大道具係が製作。詳細は`役割書_大道具係.md`）
デロリアンの走行シーン	舞台上を実際に走らせず、キャスターまたは台車に載せて役者が押し引きし、暗転中に袖へ引き込む。走行音・タイヤ痕の演出は音響・照明で補う	○ 実現可能（安全第一。台車の可動域はゲネプロで要確認）
時計塔への落雷	本物の高圧電流・火花は一切使わない。照明のストロボ発光（白色フラッシュ）＋雷鳴の効果音（SE1「雷鳴・時計塔」）の組み合わせで表現	○ 実現可能（照明・音響の同期練習が必須）
タイムトラベル演出（光と時間の歪み）	舞台全体のストロボ点滅＋暗転＋デロリアン起動音（SE2）で表現。実際の特殊効果（発煙機等）は学校設備の都合上使用しない	○ 実現可能（フォグ的表現は照明の点滅パターンで代替。発煙機は火災報知器誤作動のリスクがあるため不採用）
ダンスパーティのバンド演奏	生徒がステージ上で楽器を持ち「演奏しているふり（口パク・弾いているふり）」をし、実際の音はBGM（CUES 05）で流す	○ 実現可能（バンド役の生徒に軽い振り付け指導が必要）
マーティのロックンロール演奏シーン	ギター（小道具・本物の弦は張らない）を持ってのパフォーマンス演技。実際の演奏音はBGM再生。曲は著作権に配慮し、フリー音源またはオリジナルのインスト曲を使用予定	○ 実現可能（著作権処理が前提。詳細は下記「音源について」参照）

原作の演出	学校の舞台での代替案	実現可否
フィナーレの花火演出（本企画オリジナル追加要素）	本物の火薬・発炎筒は一切使用しない。舞台袖でのLEDライトの点滅＋打ち上げ効果音（SE7）のみで「花火が上がっている」ことを示唆する	○ 実現可能（火気厳禁のため演出は光と音のみ。学校の防火ルールに抵触しない）
ビフの車（1955年のいじめっ子の愛車）	大道具は用意せず、セリフと演技のみで存在をほのめかす（教室規模での再現は不要と判断）	○ 実現可能（小道具削減）

照明・音響方針

- 場面転換は照明のON/OFFで行い、暗転中に役者・小道具を素早く配置する
- 各シーンの照明カラーイメージ：
- 1985年・マクフライ家：明るい自然光（オレンジ〜白）
- ドクの実験室：怪しい紫・緑系のスポット
- 時計塔広場（実験・クライマックス）：夜の青系＋落雷時は白のストロボフラッシュ
- 1955年の街：レトロで柔らかいセピア〜暖色系
- ダンスパーティ：カラフルなミラーボール風の演出（実際のミラーボールが無ければ複数色のスポットライトを点滅させて代用）
- 最重要キュー（SE1「雷鳴・時計塔」）は照明・音響・舞台監督の三者連携が必須。詳細は`プロジェクト概要.md`「音響ツールCUES一覧」参照

コミカル演技について

- ビフ・タネン、ストリックランド校長、ダンスパーティ司会は積極的にコミカルな演技を取り入れる
- 笑いを取りながらも時間超過に注意する

---

4. キャスト一覧（配役未定）

> ※「担当者」欄は決定後に記入。実施年度・A/B班とも未定。

役名	担当者	備考
マーティ・マクフライ	未定	主人公。全ACT通し出演
ドク（エメット・ブラウン博士）	未定	1985・1955通し（同一役者）
ジョージ・マクフライ（1985）	未定	マーティの父・気弱な会社員
ジョージ・マクフライ（1955）	未定	高校生時代。気弱でオタク気質
ロレイン・ベインズ（1985）	未定	マーティの母
ロレイン・ベインズ（1955）	未定	高校生時代
ビフ・タネン	未定	いじめっ子。1985・1955通し
ストリックランド校長	未定	コミカルな脇役。1985・1955通し
マーティの家族（弟・妹）	未定	ACT1冒頭のみ
ダンスパーティ司会・バンドリーダー	未定	ACT5のみ、コミカル
ナレーター	未定	2〜4人。録音でも可
タウンズピープル／ダンスパーティ参加者	未定	モブ。複数名

---

5. スタッフ構成

※ 担当者は決定後に記入。詳細は各係の役割書を参照。

役割	目安人数	担当者	主な業務
照明	2〜3人	未定	照明操作・キューシート管理（特にSE1「雷鳴・時計塔」の同期）
音響	2人	未定	BGM・SE管理、音響ツールの操作
小道具	2〜3人	未定	デロリアンの小物・ギター・タイムトラベル用具の管理
大道具	3〜4人	未定	デロリアン張りぼて・時計塔パネル・ダンスパーティ装飾の制作
舞台監督	1〜2人	未定	場転の指示出し・タイム管理・SE1キューの最終合図

役者の兼務について

出番のないシーンでは、役者もスタッフの仕事を手伝う（目安）。

役者	出番の少ないシーン（目安）	兼務できる仕事
マーティの家族	ACT2〜6	小道具の受け渡し・場面転換補助
ジョージ・ロレイン（1985）	ACT2〜5	大道具の場面転換補助
ストリックランド校長	ACT1・4	小道具の受け渡し・照明補助
タウンズピープル	出番のないACT	大道具の場面転換補助（ダンスパーティ装飾の設営）
ナレーター役	出番は録音の場合のみ	音響操作・照明補助

---

6. 必要機材・小道具

舞台・音響機材

品目	数量	調達先	備考
スピーカー		学校備品	
PC（音源再生用）	1台	持ち込み	
照明機器（ストロボ効果対応）		学校備品	SE1「雷鳴・時計塔」で使用。ストロボ機能の有無を事前に確認すること
LEDテープ・LEDライト（電池式）	数本	購入	デロリアンのフラックスキャパシタ・花火演出用

大道具（制作物）

品目	説明	調達・制作方法
デロリアン張りぼて	段ボール・ベニヤ板製の車体シルエット。ガルウィングドア（蝶番付き段ボール）、フラックスキャパシタ用LEDテープ内蔵、下	大道具係が製作（詳細は`役割書_大道具

品目	説明	調達・制作方法
	部にキャスター	係.md`）
時計塔背景パネル	ACT1（実験）・ACT6（クライマックス）兼用。時計の絵＋落雷演出用の白色反射素材	段ボール・模造紙で制作
1955年の街並みパネル	ACT2〜4で使用。レトロな街並みのイラスト	模造紙で制作
ダンスパーティ装飾	「Enchantment Under the Sea」の看板・海をイメージした飾り付け（星形の切り紙、青系の布）	教室装飾と兼ねて制作

小道具

品目	数量	担当
ギター（小道具、弦なし）	1本	小道具係（ACT5でマーティが使用）
タイムサーキット風パネル（デロリアン車内、日付表示）	1個	小道具係（発光ダイオードで日付風の数字を光らせる）
ドクの実験ノート・書類	数枚	小道具係
懐中時計（ドク使用）	1個	小道具係
ビフの学生ジャケット風衣装	1着	小道具係（衣装扱い）
ジョージ・ロレインの1955年風衣装（各1955/1985で2セット）	各1着	小道具係（衣装扱い）

---

7. 予算計画（見積もり）

> ※ 金額は見積もり。クラス費から支出。実際の予算は配役決定後に精査する。

品目	予算（円）	備考
デロリアン張りぼて材料費	約4,000〜7,000	段ボール・ベニヤ板・蝶番・LEDテープ

品目	予算（円）	備考
大道具・材料費（その他パネル）	約3,000〜5,000	時計塔・街並みパネル・ダンスパーティ装飾
小道具・材料費	約1,500〜2,500	ギター・懐中時計・タイムサーキットパネル等
衣装・布地代	約4,000〜6,000	1955年風レトロ衣装2セット・ビフのジャケット等
印刷費	約2,000〜3,000	台本・役割書一式
機材（電池・延長コード等）	約1,000	LEDテープ用電池・延長コード
予備・雑費	約1,000	
合計概算	**約16,500〜25,500円**	クラス費から支出（配役人数決定後に1人あたりを算出）

8. 練習スケジュール（想定・実施年度未定）

期間	内容	目標
配役決定〜2週間	台本配布、読み合わせ	全員が台本の流れを把握
〜1ヶ月	個人練習・セリフ覚え、グループ稽古	主要シーンのセリフ暗記
〜1ヶ月半	集中稽古（動きの確認）、照明・音響合わせ	SE1「雷鳴・時計塔」の三者連携練習
〜2ヶ月	衣装合わせ・通し稽古	衣装着用での動き確認
直前1週間	最終通し稽古・修正、ゲネプロ	本番同様の流れを体験
本番	★ 学内発表・一般公開（日程未定）	

9. 教室装飾

文化祭当日の教室外観・待機スペースの装飾方針。**大道具係が主体で担当**（有志も歓迎）。

場所	装飾内容	備考
教室入口	演目名看板「Back to the Future」（模造紙、デロリアンのイラスト付き）・タイムサーキット風の数字デコレーション	レトロフューチャー風の配色（黒・オレンジ・銀）
教室外（廊下）	「Enchantment Under the Sea」ダンスパーティ風の星・海をイメージした飾り付け、1955年の街並みイラスト	青・銀・オレンジのテーマカラーで統一
舞台周辺	キャスト紹介ボード（役名＋役者名）	手書きまたは印刷で掲示
観客席	椅子の配置・通路確保	舞台監督と連携して決定

音源について（著作権に関する注記）

本企画書・音響ツールのCUES名には、原作にちなんだ楽曲名（例：「Power of Love」）を「どんな雰囲気の曲を当てはめる想定か」を示す仮ラベルとして使用しているが、実音源ファイルはこの資料一式には一切含まれていない。実際に本番で使用する音源は、著作権処理済みの音源、またはフリー音源・オリジナル演奏によるインスト曲を別途調達すること（`プロジェクト概要.md`重要ルール11番も参照）。